

## 第3章

### 調査結果の概要

※グラフ内の数値は、平成24年度調査における割合を表す。

※（ ）内の数値は、平成19年度調査における割合を表す。



# 1 規範意識

○この10年間で、本県児童生徒の規範意識は全体的に向上している。

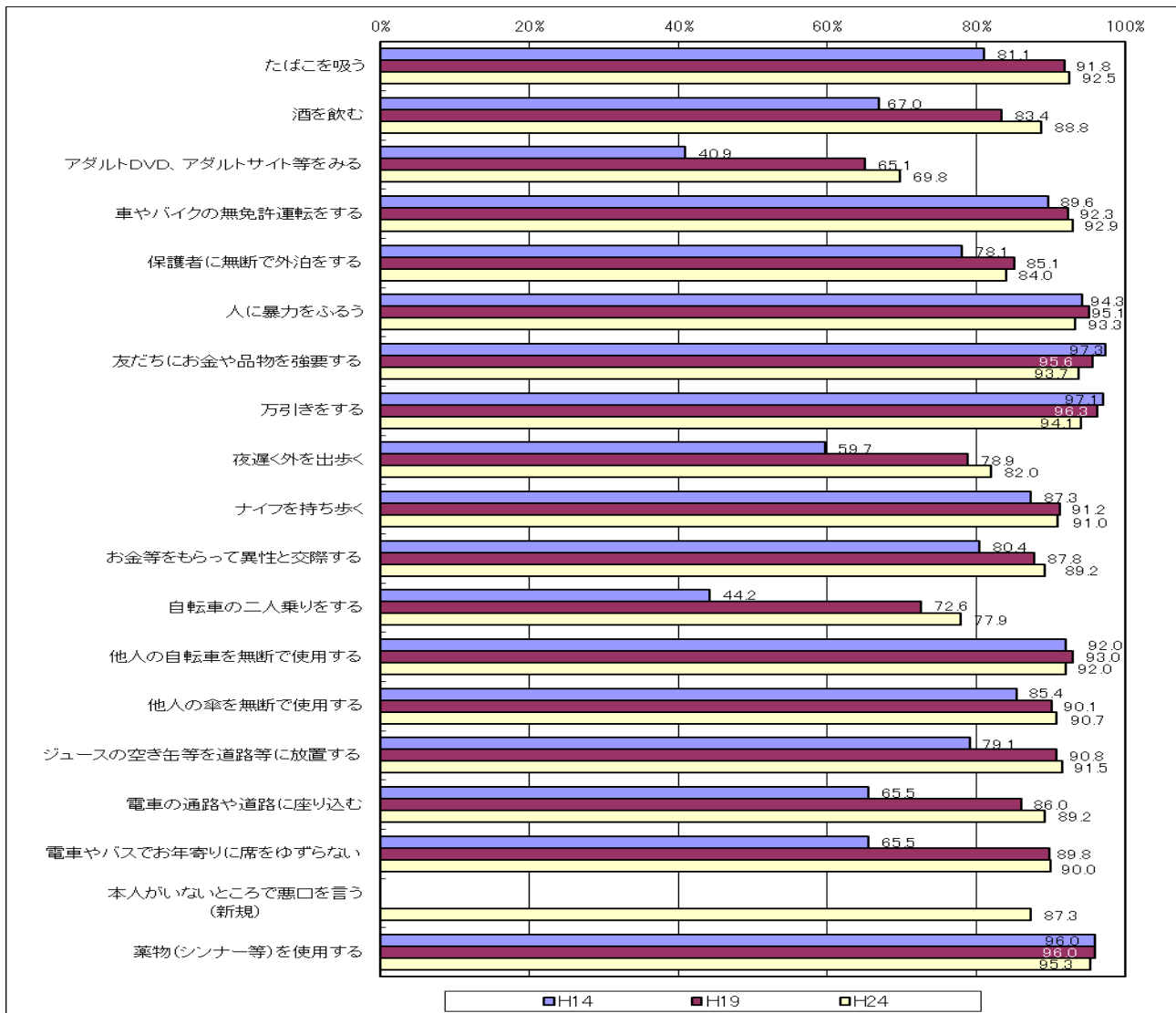
## <調査内容>

- 「日常生活での友だちの行為に対する善悪の判断」に関する内容（19項目）
- 「学校での友だちの行為に対する感じ方」に関する内容（7項目）
- 「授業中の行為に対する感じ方」に関する内容（9項目）

## <調査結果>

- ① 10年間の経年比較で、33項目中28項目で数値が向上（この5年間では26項目で向上）。
- ② 10年間の経年比較で、平均12.3ポイント向上（この5年間では2.3ポイント向上）。

### (1) 日常生活での友だちの行為に対する善悪の判断

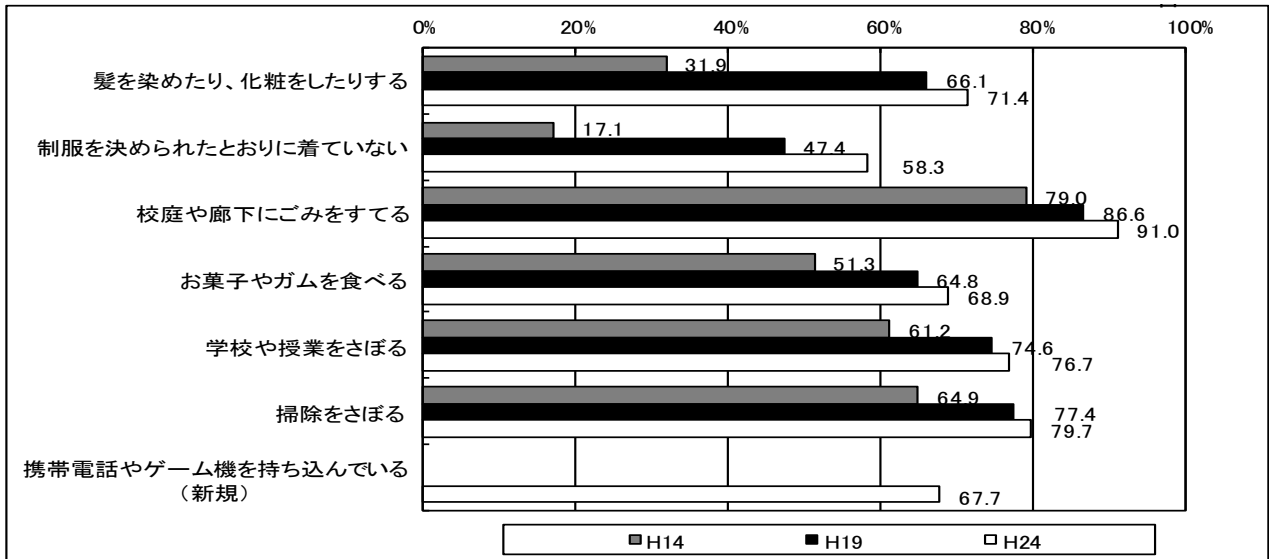


【図1】 日常生活で友だちが行っていたら「悪いと思う」と回答した割合（全児童生徒）

\*「本人のいないところで悪口を言う」は、今回新設。

- 喫煙、飲酒、AV視聴、深夜外出、自転車二人乗り、空き缶放置、通路マナー、座席マナーなど12項目で「悪いと思う」児童生徒が増加（「日常生活の友人の行為」18項目では、平均9.9ポイント向上）。
- 「人に暴力をふるう」「友だちにお金や品物を強要する」「万引きをする」がやや低下。ただし、今回の調査では「無回答・誤記入」の回答割合が増えている。

## (2) 学校での友だちの行為に対する感じ方

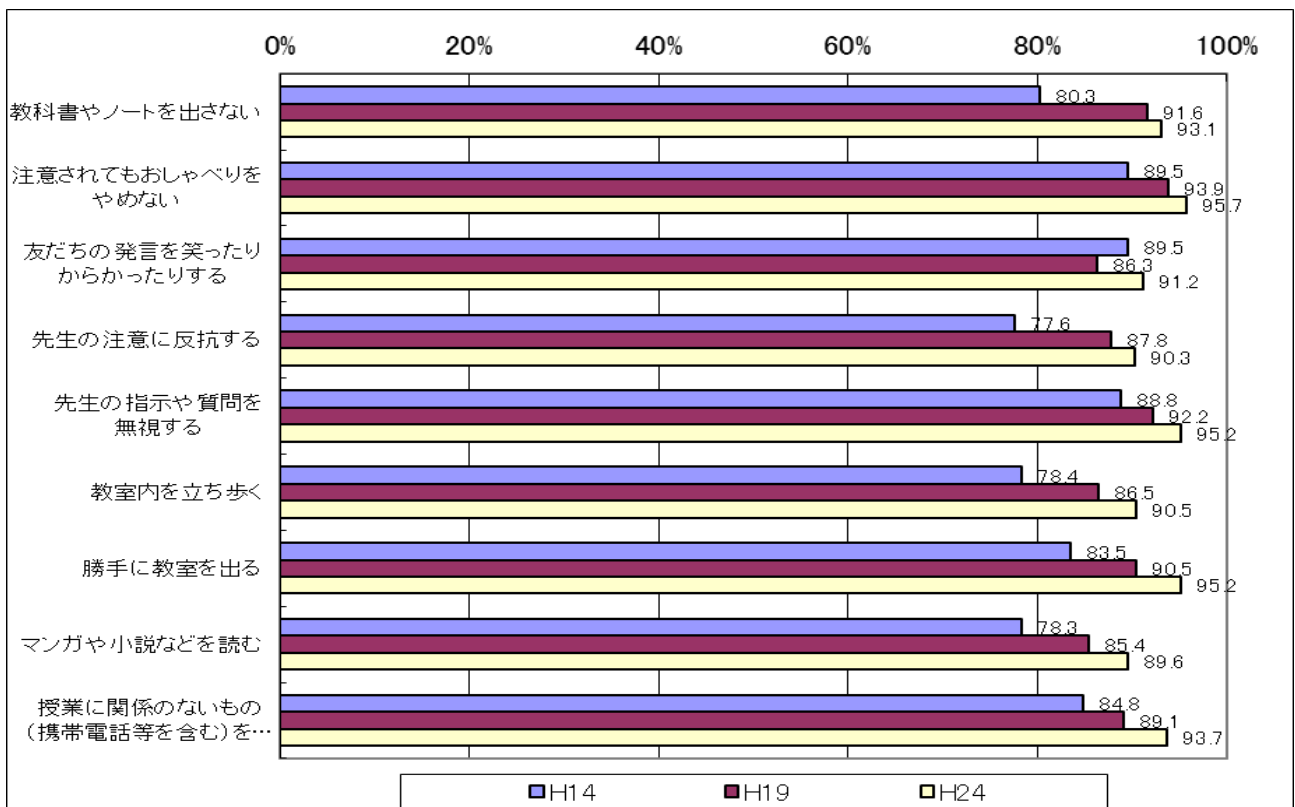


【図2】 学校で友だちが行っていたら「嫌な感じがする」と回答した割合（全児童生徒）

\*最下段の項目「携帯電話やゲーム機を持ち込んでいる」は、今回新設。

- 髪染めや制服着用に関する項目をはじめ、全ての項目で向上。特に、身なり・服装に関する項目は、約40ポイント増加（「学校での友だちの行為」に関する6項目では、この10年間で平均23.4ポイント向上）。
- 全項目の平均は73.4%止まり。「校庭や廊下にごみを捨てる」以外は、90%に達していない。
- 新しい質問項目「携帯電話やゲーム機を持ち込んでいる」は67.7%で、平均を下回っている。

## (3) 授業中の行為に対する感じ方



【図3】 授業中に行ったら「悪いと思う」と回答した割合（全児童生徒）

- 授業中の私語や先生の注意に関する項目をはじめ、全ての項目で向上。全項目でほぼ90%以上の児童生徒が「悪いと思う」と回答（「授業中の行為」に関する項目は、10年間で平均9.7ポイント向上）。
- 「マンガを読む」「先生の注意に反抗する」「室内を立ち歩く」は、約1割が「悪い」とは思っていない。

## 2 家庭生活

- この10年間で、「家庭生活が楽しい」「朝食を食べる」児童生徒の割合が増えている。
- 「家庭生活が楽しい」児童生徒ほど、規範意識が高い傾向にある。
- 「朝食を食べる」児童生徒ほど、規範意識が高い傾向にある。

### <調査内容>

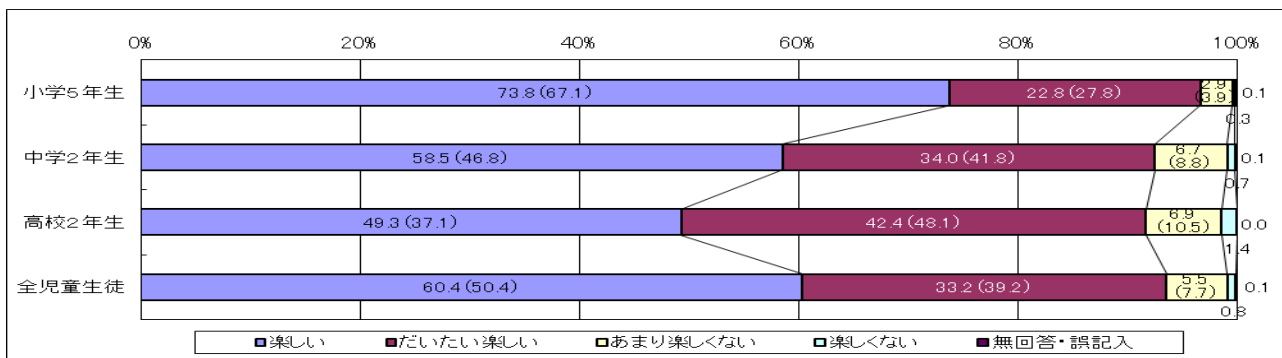
○「家庭生活の楽しさ」「就寝時刻」「朝食の有無」「下校後の学習時間」など

### <調査結果>

※報告書「6.4」から訂正

- ① 「家庭生活が楽しい」割合が全校種で増加（この10年間で、平均6.2ポイント増加）。
- ② この10年間で「早寝傾向」になっていることが、全校種でうかがえる。
- ③ 「朝食を食べる」割合が全校種で増加（この10年間で、平均3.4ポイント増加）。
- ④ 下校後の学習時間が全体的に増加していることが、全校種でうかがえる。

### (1) 家庭生活の楽しさ



【図4】 家庭生活の楽しさ（※図中の（ ）内の数値は、平成19年度調査における割合を示す。以下同じ）

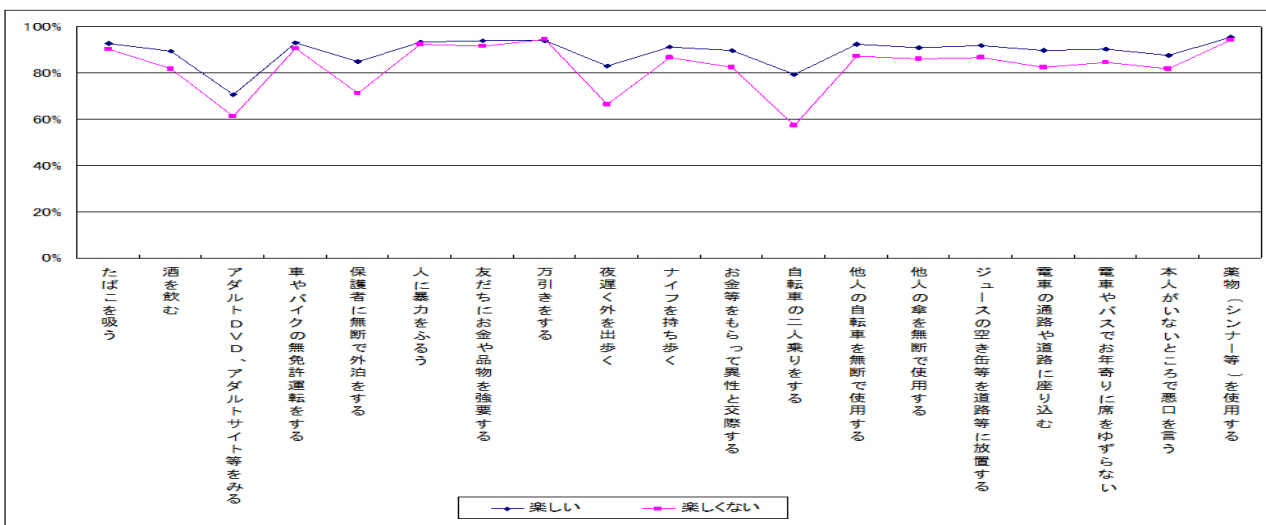
- 全児童生徒の93.6%が「家庭生活が楽しい」と回答。
- \*過去2回の集計と同じように、「楽しい」と「だいたい楽しい」の回答を合わせて「家庭生活が楽しい」の回答としている。
- 「家庭生活が楽しい」児童生徒が、10年前と比べると全校種で増加（【表1】参照）。

【表1】 「家庭生活が楽しい」と回答した児童生徒の校種別・年度別割合

対象	年度	H14	H19	H24
小学5年		93.5%	94.9%	96.6%
中学2年		84.9%	88.6%	92.5%
高校2年		83.7%	85.2%	91.7%
全児童生徒		87.4%	89.6%	93.6%

### <「家庭生活が楽しい」割合10年間の変化>

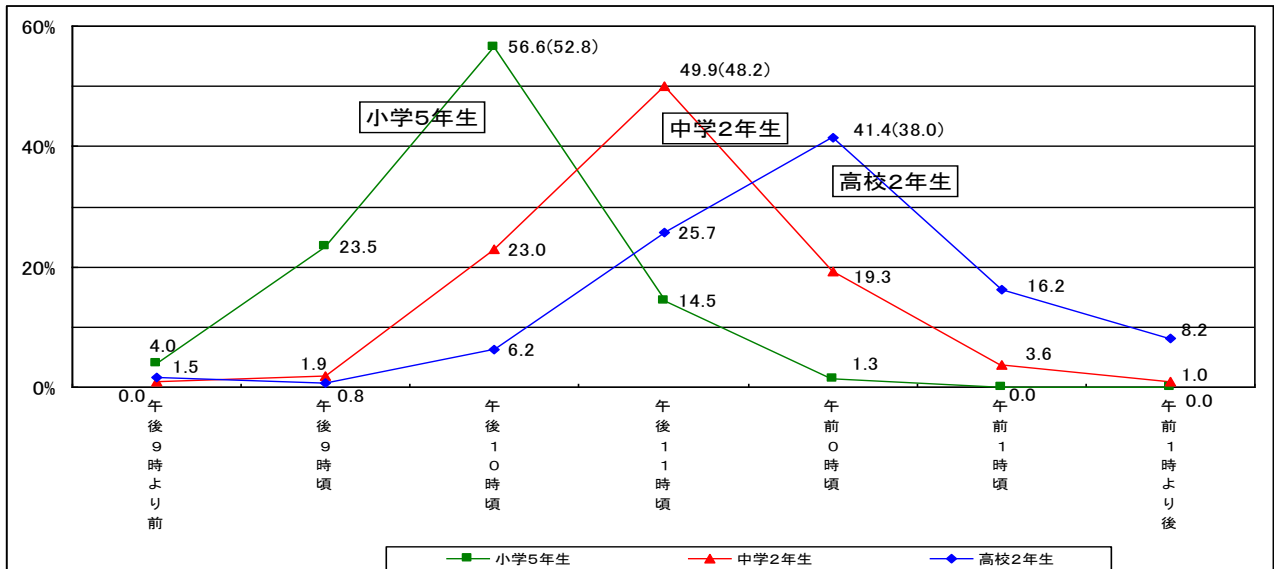
- 小5・・・3.1ポイント増加
- 中2・・・7.6ポイント増加
- 高2・・・8.0ポイント増加
- 全・・・6.2ポイント増加



【図5】 「家庭の楽しさ」と「日常生活での友だちの行為に対する善悪の判断」（クロス集計）

- 「家庭生活が楽しい」と回答した児童生徒の方が、規範意識が高い傾向にある。

## (2) 就寝時刻



【図6】 就寝時刻の校種別状況

- 校種別の就寝時刻のピークは、小学5年生では「午後10時頃」、中学2年生では「午後11時頃」、高校2年生では「午前0時頃」（【図6】参照）。 \*過去2回の調査でも同じ。
- 全校種の就寝時刻のピークの割合が増加。  
(この10年間で、小5で3.6ポイント、中2で2.8ポイント、高2で2.7ポイント増加)
- 就寝時刻のピークより遅く就寝している児童生徒が全校種で減少（【表2】参照）。  
(この10年間で、小5で5.4ポイント、中2で3.9ポイント、高2で6.1ポイント減少)

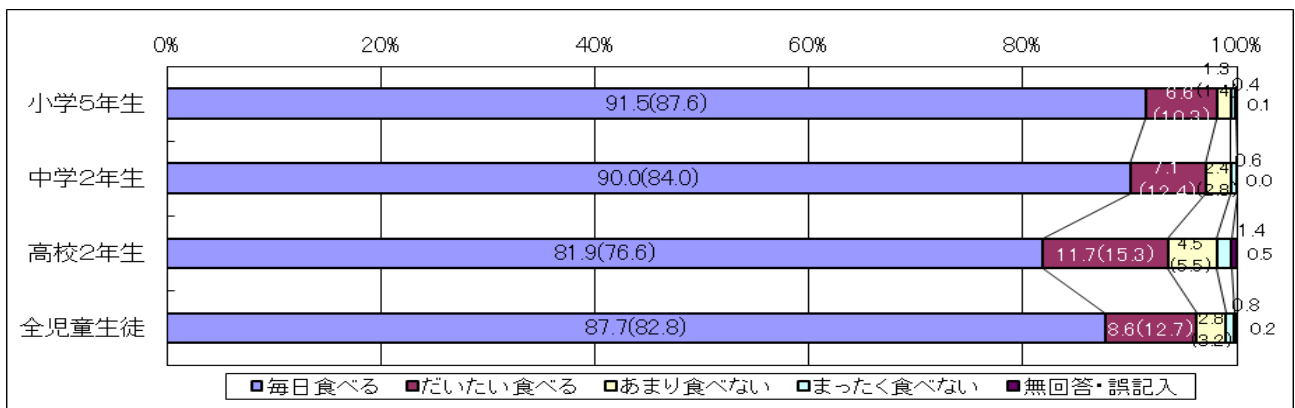
【表2】 ピーク時刻より遅く就寝する児童生徒の校種別・年度別割合

対象	年度	H14	H19	H24
小5（午後11時頃以降）		21.2%	21.6%	15.8%
中2（午前0時頃以降）		27.8%	31.5%	23.9%
高2（午前1時頃以降）		30.5%	28.7%	24.4%

<「遅く寝る」割合10年間の変化>

小5・・・5.4ポイント減少  
中2・・・3.9ポイント減少  
高2・・・6.1ポイント減少

## (3) 朝食の有無



【図7】 朝食の有無

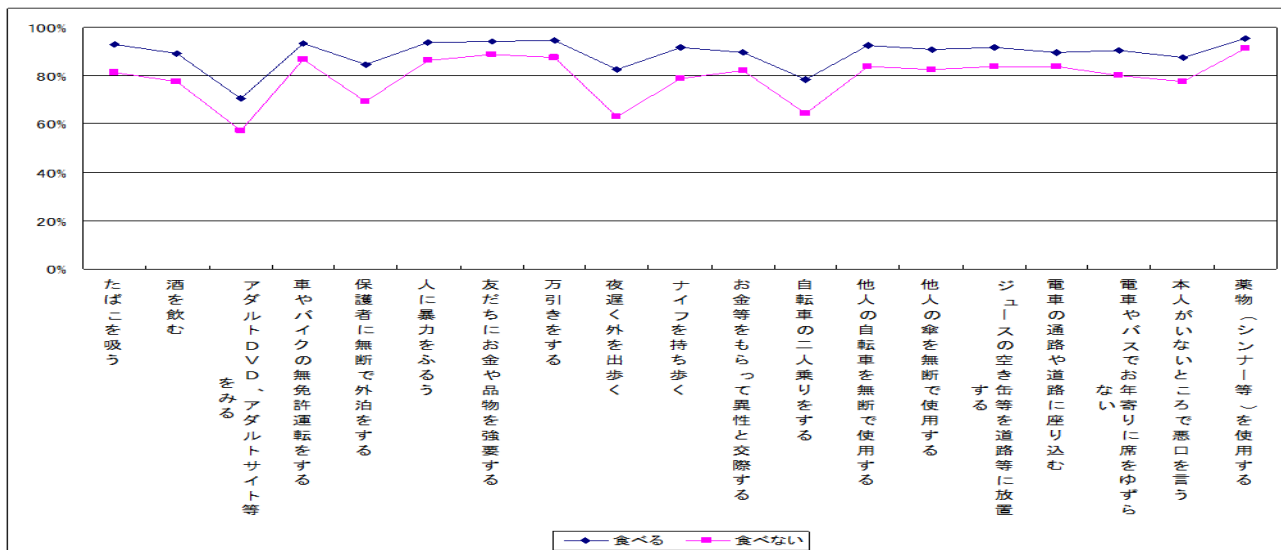
- 全児童生徒の96.3%が「朝食を食べる」と回答。  
\*過去2回の集計と同じように、「毎日食べる」と「だいたい食べる」の回答を合わせて「朝食を食べる」の回答としている。
- この10年間で、「朝食を食べる」児童生徒の割合が、全校種で増加（次ページ【表3】参照）。
- 「朝食を食べない」割合は、小5で1.7%、中2で3.0%、高2で5.9%。

【表3】「朝食を食べる」児童生徒の校種別・年度別割合

対象	年度	H14	H19	H24
小学5年生		94.8%	97.9%	98.1%
中学2年生		93.3%	96.4%	97.1%
高校2年生		90.7%	91.9%	93.6%
全児童生徒		92.8%	95.5%	96.3%

<「朝食を食べる」割合10年間の変化>

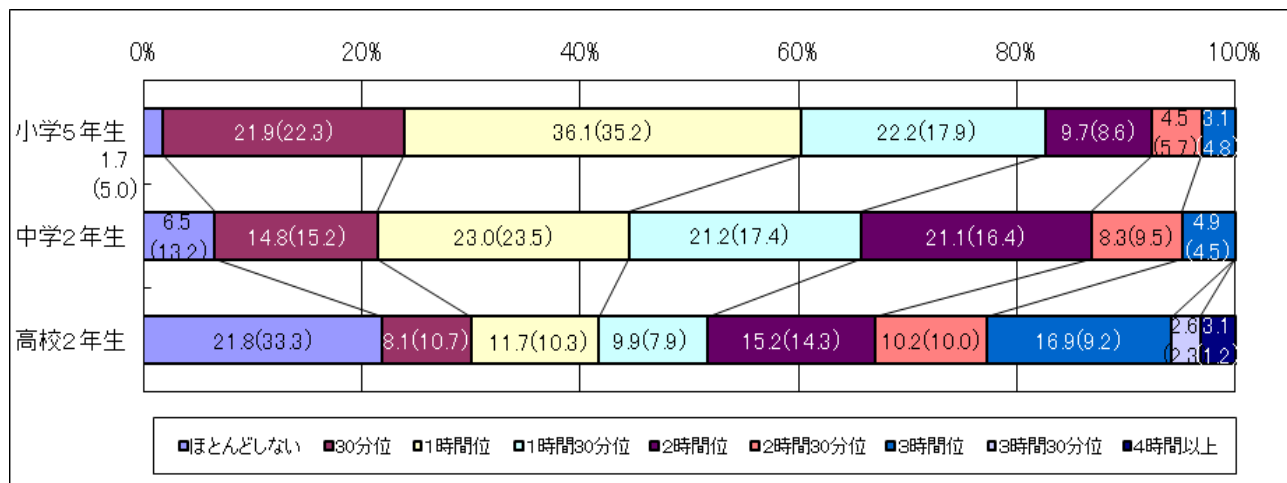
小5・・・3.3ポイント増加  
 中2・・・3.8ポイント増加  
 高2・・・2.9ポイント増加  
 全・・・3.5ポイント増加



【図8】「朝食を食べる」ことと「日常生活での友だちの行為に対する善悪の判断」（クロス集計）

- 「朝食を食べる」と回答した児童生徒の方が、規範意識が高い傾向にある。

(4) 学習時間



【図9】下校後の学習時間（塾等での学習時間を含む）

【表4】「小5で1時間以上、中2で1時間半以上、高2で2時間以上の学習」の年度別割合

対象	年度	H14	H19	H24
小学5年生		53.9%	72.2%	75.6%
中学2年生		34.0%	47.8%	55.5%
高校2年生		39.6%	37.0%	48.0%

<「一定時間以上の学習」の10年間の変化>

小5・・・21.7ポイント増加  
 中2・・・21.5ポイント増加  
 高2・・・8.4ポイント増加

- この10年間で、全校種とも下校後の学習時間（塾等での時間を含む）が増加（【表4】参照）。
- 高2では「ほとんどしない」という回答が最も多く（21.8%）、過去2回の調査に続き3回連続で一番多い。この10年間では、10.2ポイント減少（次ページ【表5】参照）。

【表5】校種別・年度別の「下校後の学習時間」上位3項目

	順位	平成14年度		平成19年度		平成24年度	
小5	1	30分位	(34.8%)	1時間位	(35.2%)	1時間位	(36.1%)
	2	1時間位	(22.8%)	30分位	(22.3%)	1時間30分位	(22.2%)
	3	1時間30分位	(13.5%)	1時間30分位	(17.9%)	30分位	(21.9%)
中2	1	ほとんどしない	(22.8%)	1時間位	(23.5%)	1時間位	(23.0%)
	2	30分位	(22.0%)	1時間30分位	(17.4%)	1時間30分位	(21.2%)
	3	1時間位	(21.0%)	2時間位	(16.4%)	2時間位	(21.1%)
高2	1	ほとんどしない	(32.0%)	ほとんどしない	(33.3%)	ほとんどしない	(21.8%)
	2	2時間位	(16.4%)	2時間位	(14.3%)	3時間位	(16.9%)
	3	1時間位	(11.3%)	30分位	(10.7%)	2時間位	(15.2%)

### 3 学校生活

○この10年間で、「学校生活が楽しい」と感じている児童生徒の割合が増えている。  
 ○「学校生活が楽しい」と感じている児童生徒の方が、規範意識が高い傾向にある。

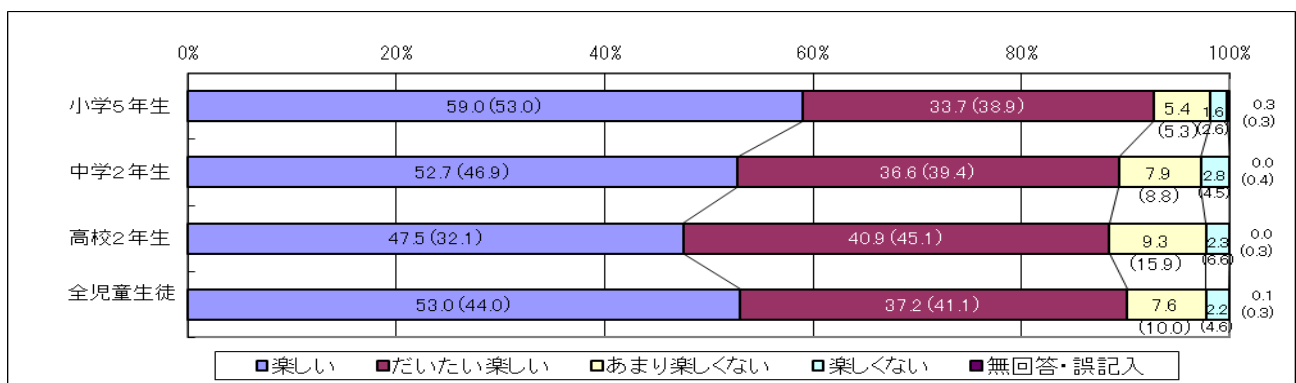
#### <調査内容>

「学校生活の楽しさ」「学校生活で満足していること」など

#### <調査結果>

- ①「学校生活が楽しい」割合が全校種で増加（10年間で、平均9.9ポイント増加）。
- ②「学校生活で満足している」ことで最も多いのは、全校種で「友だちがいる」ことである。

#### (1) 学校生活の楽しさ



【図10】学校生活の楽しさ

【表6】「学校生活が楽しい」と回答した児童生徒の校種別・年度別割合

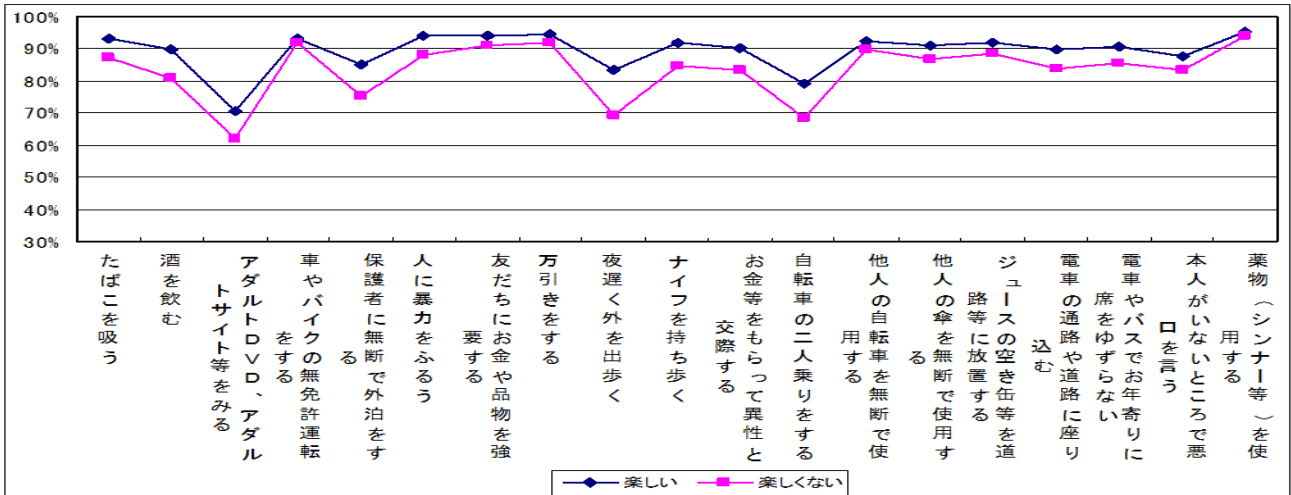
対象	年度	H14	H19	H24
小学5年生		83.5%	91.9%	92.7%
中学2年生		81.5%	86.3%	89.3%
高校2年生		75.4%	77.2%	88.4%
全児童生徒		80.3%	85.1%	90.2%

#### <「学校生活が楽しい」割合10年間の変化>

- 小5・・・9.2ポイント増加
- 中2・・・7.8ポイント増加
- 高2・・・13.0ポイント増加
- 全・・・9.9ポイント増加

- 全児童生徒の90.2%が「学校生活が楽しい」と回答。この10年間で9.9ポイント増加（【表6】参照）。  
 （校種別では小学校92.7%、中学校89.3%、高校88.4%で、全校種ともにこの10年間で増加）  
 ＊過去2回の集計と同じように、「楽しい」と「だいたい楽しい」の回答を合わせて「学校生活が楽しい」の回答としている。
- 「学校生活が楽しくない」児童生徒が、全児童生徒の9.8%。この10年間で8.9ポイント減少しているものの、約1割の児童生徒が「学校生活が楽しくない」と感じている（【図10】参照）。  
 （校種別では、小学校7.0%、中学校10.7%、高校11.6%で、全校種ともにこの10年間で減少）

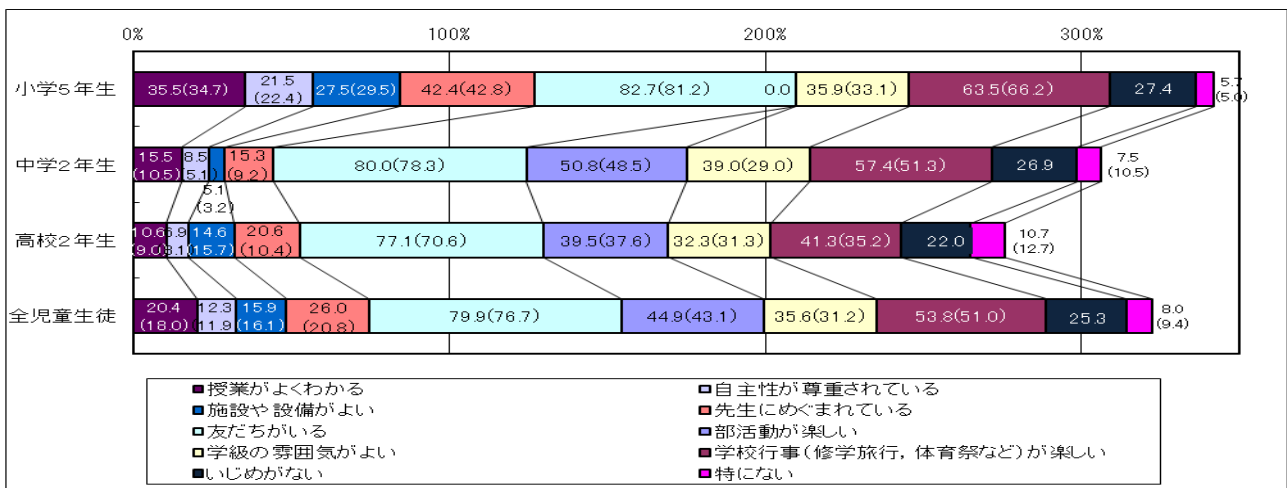




【図11】 「学校生活の楽しさ」と「日常生活での友だちの行為に対する善悪の判断」 (クロス集計)

●「学校生活が楽しい」と回答した児童生徒の方が、規範意識が高い傾向にある。

(2) 学校生活で満足していること (※複数回答のため100%を超えている)



【図12】 学校生活で満足していること

【表7】 「学校生活で満足していること」の校種別・年度別上位5項目 (「いじめがない」は今回新設)

	順位	平成14年度	平成19年度	平成24年度
小5	1	友だちがいる (83.7%)	友だちがいる (81.2%)	友だちがいる (82.7%)
	2	学校行事が楽しい (63.0%)	学校行事が楽しい (66.2%)	学校行事が楽しい (63.5%)
	3	先生にめぐまれている (43.4%)	先生にめぐまれている (42.8%)	先生にめぐまれている (42.4%)
	4	施設設備がよい (32.6%)	授業がよくわかる (34.7%)	学級の雰囲気がいよい (35.9%)
	5	学級の雰囲気がいよい (32.2%)	学級の雰囲気がいよい (33.1%)	授業がよくわかる (35.5%)
中2	1	友だちがいる (81.9%)	友だちがいる (78.3%)	友だちがいる (80.0%)
	2	学校行事が楽しい (55.9%)	学校行事が楽しい (51.3%)	学校行事が楽しい (57.4%)
	3	部活動が楽しい (49.0%)	部活動が楽しい (48.5%)	部活動が楽しい (50.8%)
	4	学級の雰囲気がいよい (28.7%)	学級の雰囲気がいよい (29.0%)	学級の雰囲気がいよい (33.1%)
	5	先生にめぐまれている (12.6%)	授業がよくわかる (10.5%)	いじめがない (26.9%)
高2	1	友だちがいる (77.4%)	友だちがいる (70.6%)	友だちがいる (77.1%)
	2	部活動が楽しい (33.6%)	部活動が楽しい (37.6%)	学校行事が楽しい (41.3%)
	3	学校行事が楽しい (32.9%)	学校行事が楽しい (35.2%)	部活動が楽しい (39.5%)
	4	学級の雰囲気がいよい (24.8%)	学級の雰囲気がいよい (31.3%)	学級の雰囲気がいよい (32.3%)
	5	特にない (12.4%)	施設設備がよい (15.7%)	いじめがない (22.0%)

- 学校生活で満足していることで最も多いのは、この10年間、全校種「友だちがいる」ことである。
- 学年が上がるにつれて、満足していることの合計割合が減少している (【図12】参照)。
- 満足していることが「特にない」という児童生徒が、全体で1割近くおり、学年が上がるにつれて増えている (小5の5.7%、中2の7.5%、高2の10.7% 【図12】参照)。

#### 4 社会生活

○この10年間で、「ボランティア活動への関心」が全校種で増加している。  
 ○この5年間で「メールのやりとりの経験がある」児童生徒は、小・中学生では減少しているが、高校生では高い割合のままで増加している。\*「メールのやりとりの経験」は、5年前からの調査。

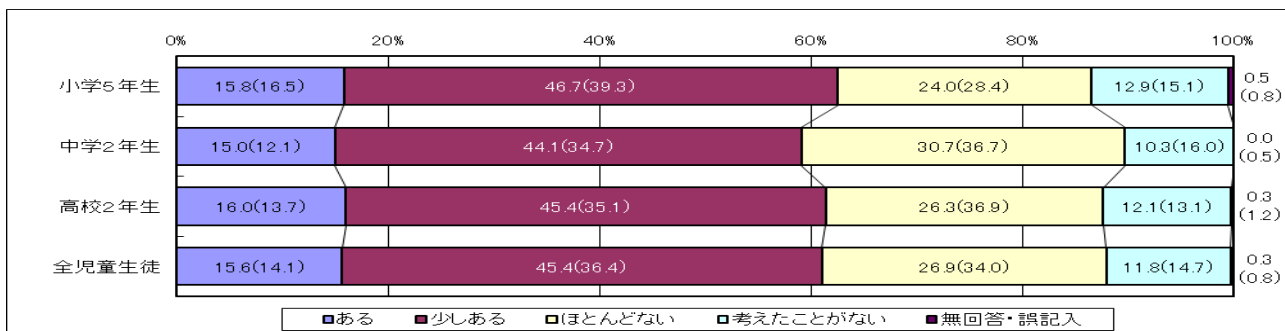
##### <調査内容>

「ボランティア活動への関心」「メールのやりとりの経験」など

##### <調査結果>

- ①「ボランティア活動への関心」に、「ある」または「少しある」と回答した割合が、全校種で増加している（10年間で、小5で4.8ポイント、中2で7.5ポイント、高2で3.6ポイント増）。
- ②「メールのやりとりの経験」は、この5年間で、小5と中2で減少し、高2で増加している。

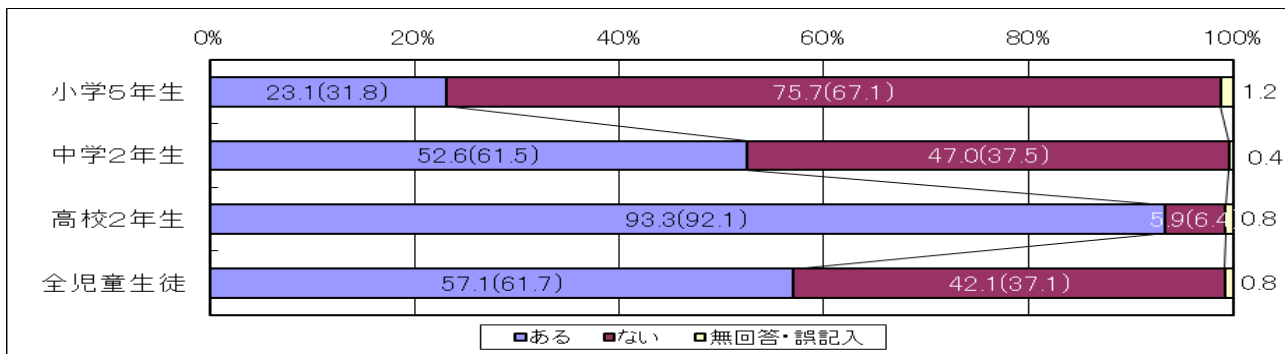
#### (1) ボランティア活動への関心



【図13】ボランティア活動への関心

- 「ボランティア活動への関心」が「ある」「少しある」と回答した割合は、児童生徒全体で見ると61.0%で、5年前と比較すると10.5ポイント増加している。

#### (2) メールやりとりの経験



【図14】メールのやりとりの経験（※高2は10年前から、小5と中2は5年前から調査）

【表8】「メールの経験あり」の校種別・年度別比較

対象	年度	H14	H19	H24
小学5年生			31.8%	23.1%
中学2年生			61.5%	52.6%
高校2年生		73.2%	92.1%	93.3%

- 「メールのやりとりの経験がある」高校生の割合は93.3%で、この10年間で20.1ポイント増加。
- 小・中学生は、それぞれ23.1%、52.6%で、この5年間でそれぞれ、8.7ポイント、8.9ポイント減少（【図14】、【表8】参照）。

【表9】「見ず知らずの人とのメール経験あり」の校種別・年度別比較

対象	年度	H14	H19	H24
小学5年生			2.1%	0.5%
中学2年生			11.4%	9.2%
高校2年生		42.9%	49.8%	31.7%

- 「見ず知らずの人とメールのやりとりをしたことがある」児童生徒は、小5が0.5%、中2が9.2%、高2が31.7%で、この5年間で、小5は1.6ポイント、中2は2.2ポイント、高2は18.1ポイント減少（【表9】参照）。